

第5章 運行するための予算、道具を確保する

5-1 準備、実証運行、本格運行 にかかる費用について

(1) 初期費用

初期費用として必要な主な項目を以下にまとめます。すべての項目が必須ではありませんので、地域の運行状況等にあわせて選択してください。

【車両調達に関する費用】

費目	例
車両調達費	購入
	リース
	レンタル
ドライブレコーダー導入費	
安全管理ソフト導入費	

【その他（車両以外）の費用】

費目	例
駐車場賃借費	空スペースを利用
	駐車場の契約
事務所賃借費	既にある事務所を兼用
	新規で契約（契約料）
パソコン	ノートパソコン
ソフト関連	基本ソフト（ワード、エクセル）
	予約システム
	セキュリティソフト
印刷機	
電話・FAX 複合機	
携帯電話	
固定電話回線	
インターネット回線	
金庫	小型金庫
広報費	取り組み周知用のチラシ作成、印刷
備品	

(2) 維持費用

【車両維持に関する費用】

費目		例
車両購入の場合	税金	自動車税
	車検費用	重量税
		自賠責保険
		印紙代
		車検基本費用
リースの場合	リース代	
保険代		任意保険

【その他（車両以外）の費用】

費目	例
燃料費	
駐車場賃借費	空スペースを利用
	駐車場の契約
事務所賃借費	既にある事務所を利用
	新規で借りる
通信費	携帯電話料金
	電話回線
	インターネット回線
安全管理ソフト	ドライブドクター など
消耗品	紙、文具など

(3) 収支計画

参考として、以下の条件で収支計画のシミュレーションを示します。

〔条件〕

- ・週2日8時間運行、予約制
- ・ドライバー、事務局員は運行予定日に待機とし時給860円を支払う
- ・車両は軽自動車を1台リース契約する
- ・駐車場、事務所は空きスペースを利用する

〔1回あたりの距離、時間の試算〕

- ・1回あたりの走行距離
平均利用距離5km + 駐車場から利用者宅まで5km = 10kmと想定
- ・1回あたりの所要時間
走行速度40km/hとした場合、 $10\text{km} / 40\text{km/h} = 0.25\text{h} = 15\text{分}$
乗降待ちする間の待機時間15分、乗車記録など10分
 $15\text{分} + 15\text{分} + 10\text{分} = \underline{40\text{分程度と想定}}$

〔1回あたりの燃料費の計算〕

- ・1回あたりの燃料費
走行距離10km ÷ 燃費20km/ℓ × ガソリン156円/ℓ = 78円/回

〔利用回数の試算〕

- ・1日あたりの利用回数（最大値）
1日最大の利用回数は $8\text{h} \times 60\text{分} \div 40\text{分} = 12\text{回}$ 、余裕をみて10回と想定
- ・年間の運行日数 $365\text{日} \times 2/7 = \underline{104\text{日}}$
- ・年間の利用者数 $10\text{回} \times 104\text{日} = \underline{1,040\text{回}}$

〔利用者負担額の設定〕

- ・1回あたりの人件費（自家用有償旅客運送の場合）
時給860円とした場合、 $860\text{円/h} \times 40\text{分} \div 60\text{分} = \underline{574\text{円/回}}$
- ・1回あたりの燃料費と人件費（自家用有償旅客運送の場合）の合計
燃料費78円+人件費574円=652円
キリのよい数字の方が集めやすいため、500円/回で設定
※対象地域のタクシーの上限運賃の概ね1/2の範囲内とされています
宮崎県内におけるタクシー料金は、小型の場合5km1,650円程度となっているため、 $1,650\text{円} \div 2 = 825\text{円}$ の範囲内を目安とします。

【収入】

費目	規格など	数	単位	単価	金額（目安）
利用者負担額	1回 500円（※1）	1,040	回	500	520,000
その他	会費				
	別事業収入				
	補助金・助成金				
	協賛金				
	広告収入				
合計					520,000

【支出】

費目	規格など	数	単位	単価	金額（目安）
車両維持費	軽自動車リース 契約	1	台	550,000	550,000
保険代		1	台	230,000	230,000
燃料費		1,040	回	78	81,120
ドライバー人件費	8h/日×104日	832	時間	（※2）860	715,520
事務局人件費	8h/日×104日	832	時間	860	715,520
通信費	携帯電話、インター ネット回線料	12	月	10,000	120,000
その他					
合計					2,412,160

※1 互助輸送の場合は、1回当たりの燃料費（ここでは78円）を超える利用者負担額を設定することはできません。

※2 互助輸送の場合は、ドライバーの人件費を支払うことはできませんので、単価が「0」になります。

収入 520,000	－	支出 2,412,160	=	▲1,892,160
------------	---	--------------	---	------------

※赤字部分を補助金や助成金等で補填する必要があります。

ポイント！

- ・利用者の負担額だけですべてをまかなうのは難しそうですね！
- ・事務局人件費は他の業務との兼務などで節約することも考えよう！
- ・運営資金として、助成金や補助金のほか、協賛金や広告費、ネーミングライツなどの導入、別の収益事業を行ったりして収入を得ているところもあるよ！



(4) 財源確保・補助制度

行政補助や財団等の支援は、初期費用や維持費用の不足分を賄うという意識をもち、可能な限り地域にて費用を準備することが重要です。特に維持費用については、持続的な運用を行うために、利用者の利用料から賄うことが理想ですが、現実的には厳しいため、別事業の収入や企業からの協賛金、広告収入など工夫しながら資金を獲得していきましょう。